

6. 河川整備計画の方向性

6.1 治水に関する事項

6.2 環境・利水に関する事項

■ 治水の現状と課題

下流部の現状	上流部の現状	課題
<p>河道は概ね有堤であり、右岸沿いに集落が見られる。</p>	<p>稲荷橋(3k680)より下流は概ね有堤であり、それより上流は掘込である。沿川には、水田や畑等の農地が広がっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画高水位における流下能力は、0.2kから1.8k付近で年超過確率1/5に対する流下能力が不足している。 ・1k000付近の右岸堤防高が、周辺の堤防高よりも低い。
<p>天白川では、昭和42年以降河川改修が進められ、既定計画による暫定改修が-0k400~0k100区間、1k285~3k200区間で行われている。</p>		
<p>河口に高潮水門を設置している。</p>	<p>—</p>	<p>現在の高潮水門を生かした津波対策が必要となる。</p>



■ 河川整備計画の目標（治水）

- 対象期間：概ね30年間

洪水、高潮及び地震・津波による被害の発生防止又は軽減に関する目標

・洪水、高潮及び地震・津波による災害の防止または軽減を図るために、治水整備を実施。

方向性

【洪水対策】

・洪水対策については、過去の浸水被害実績や河道の整備状況を勘案し、天白川においては、年超過確率1/5の規模の降雨による洪水を安全に流下させる整備を行う。

【高潮対策】

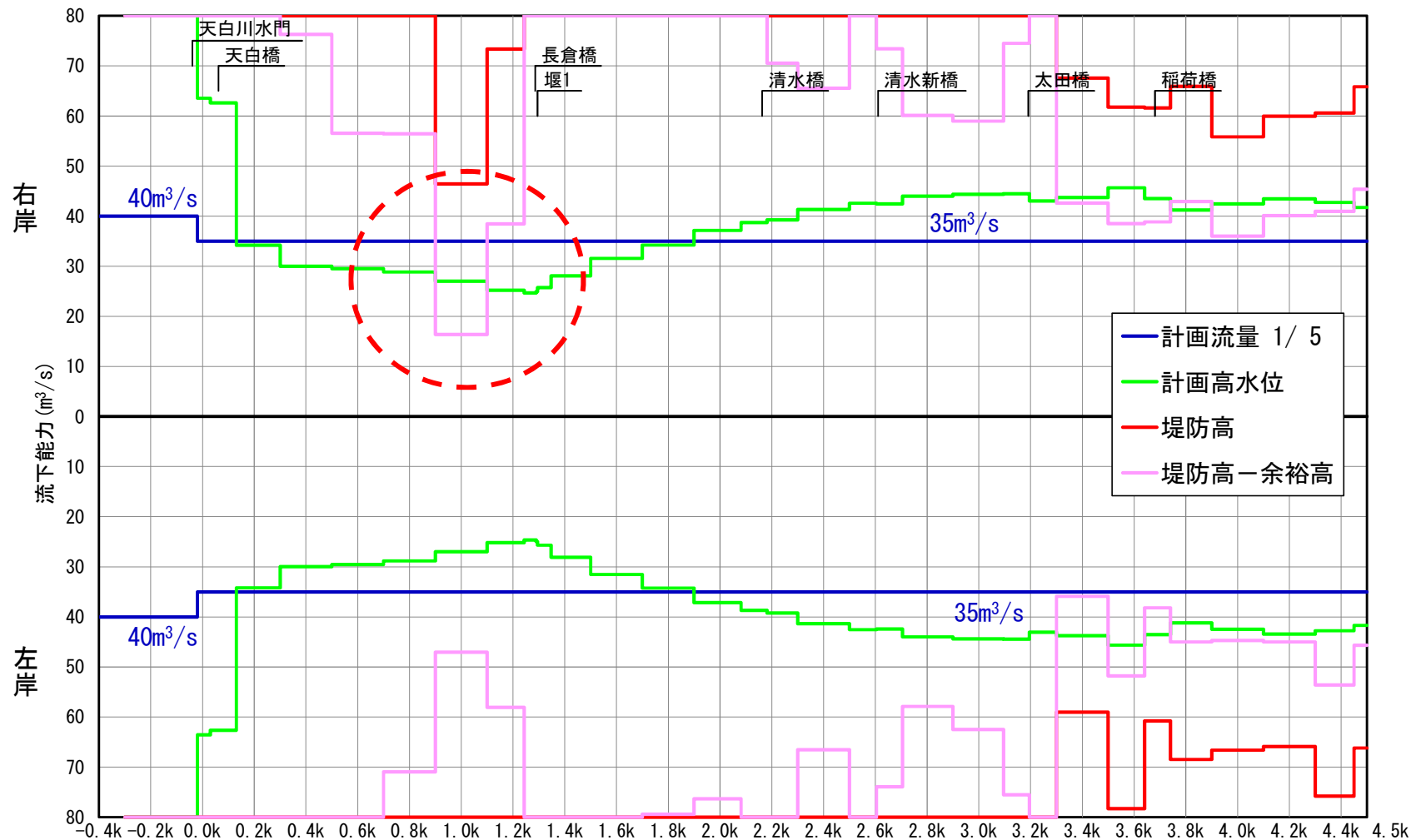
・高潮対策については、河口水門（既設）により伊勢湾台風規模の高潮による浸水被害の防止を図る。

【地震・津波対策】

・地震・津波対策については、施設計画上の津波（河口が位置する地域海岸における設計津波の水位T.P.3.4m）に対し必要な機能を確保するため、水門の耐震対策など必要な対策を実施する。

■ 現況流下能力

- 計画高水位(HWL)における流下能力は、0.2kから1.8k付近で年超過確率1/5に対する流量を下回る。
- 堤防高-余裕高における流下能力は、1.0k付近で年超過確率1/5に対する流量を下回る。



▲ 現況流下能力図

■ 河川整備の実施に関する事項（案）

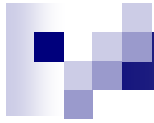
- 天白川の浸水被害を軽減するため、年超過確率1/5の降雨に対する洪水を安全に流下させる整備を行う。
- 天白川の現況流下能力(HWL評価)は、整備計画高水に対して0.2k~1.8kで不足しているが、「堤防高ー余裕高」で流下能力を評価すると、1.0k付近の右岸のみ不足している。
- 天白川で想定される水害による社会的影響や県内他河川との整備バランスを踏まえ、今後概ね30年で実施する予定である今回の整備計画では、「堤防高ー余裕高」評価での整備を計画に位置づける。



天白川(0.9k~長倉橋(1.285k))
 浸水被害軽減のため、築堤により、年超過確率1/5対応の河道整備を図る

▲ 本流域における河川工事の施行場所

河川名	施行場所	延長	主な工事内容
天白川	約0.9km~長倉橋(1.285k)右岸	約0.385km	築堤



6. 河川整備計画の方向性

6.1 治水に関する事項

6.2 利水・環境に関する事項

■ 利水・環境の現状と課題

	下流部の現状	上流部の現状	課題
利水	農業用許可水利権、慣行水利権がそれぞれ1件ずつ許可されている。		—
環境	河口から長倉橋(1k285)まで潮の干満の影響を受ける。また、水際には塩沼植物であるシオクグ群集がみられる。	長倉橋から清水新橋(2k610)区間は、ラバー堰による湛水区域となっており、それより上流ではワンドや早瀬がまばらに点在している。	下流部については、河川整備基本方針に対応した河道改修を行う際に、河床掘削が必要になるため、生物の生息・生育・繁殖環境の再生が必要である。
	ミミズハゼ、ヌマチチブ等の両側回遊魚、スズキ、クロダイ等の海水魚が確認された。	ニホンウナギやドブガイ、ニホンイシガメ、チュウヒ、ヤマトアシナガバチ等の重要種が確認された。	上流部については、ワンドや早瀬など多様性のある流れ場を維持し、生物の生息・生育・繁殖環境の保全が必要である。



■ 河川整備計画の目標（利水・環境）

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

- ・ 流況の把握が十分でないことから、**河川流況等の把握**に努める。

河川環境の整備と保全に関する目標

- ・ 動植物の良好な**生息・生育・繁殖環境の保全・再生**。・ **川とふれあえる場の維持・形成**。
- ・ 良好な**景観の維持・形成**。・ **水質の維持**。

方向性

【流況の把握】

- ・ 流水の正常な機能を維持するため、今後も流況等の把握に努める。

【動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生】

- ・ 多様な動植物の生息・生育・繁殖環境及び生態系ネットワークの形成に配慮するため、関係機関や地域住民と連携し、多自然川づくりに努める。

【川とふれあえる場の維持・形成】

- ・ 川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、地域住民の利用状況や要望等を踏まえ、関係機関や地域住民と連携し、親水空間の維持・形成に努める。

【良好な景観の維持・形成】

- ・ 天白川の田園景観等の周辺環境と調和した水辺空間の維持・形成に努める。

【水質の維持】

- ・ 河川の利用状況、動植物の生息・生育・繁殖環境等を考慮し、関係機関や地域住民と連携を図り、現在有している良好な水質の維持に努める。